

展示品リスト①

壁展示

谷ロジロー主要作原画ギャラリー

「遥かな町へ」カラー原画 1枚(1998年9月、小学館発行『遥かな町へ』上巻の表紙)
『坊っちゃん』の時代 シリーズ カラー原画 2枚(2010年12月、双葉社発行 カラー愛蔵版『坊っちゃん』の時代』第1巻の表紙、未発表(2003年頃)
「神々の山嶺」第56話モノクロ原画 1枚(2002年7月15日、集英社発行『ビジネスジャンプ』No.15掲載、第56話のトビラ・単行本では第34話「氷壁」として収録)
「ブランカ」カラー原画 1枚(1990年4月、双葉社発行 新装版『ブランカ』第1巻のトビラ)
「散歩もの」カラー原画 1枚(2006年3月、フリースタイル発行『散歩もの』の本体表紙)
「孤独のグルメ」新装版カバー絵 カラー原画 1枚(2008年4月、扶桑社発行)
「孤独のグルメ」第25話「鳥取県鳥取市役所のスラーメン」モノクロ原画 10枚
(「週刊SPA!」2012年5月15日号)
井之頭五郎「うまい」38連発パネル

テーブル型ケース展示

孤独のグルメ掲載誌

『月刊PANjA』1994年8月号(扶桑社)、『週刊SPA!』2012年5月15日号(扶桑社)

原作と完成原稿

「孤独のグルメ」モノクロ原画 第2話 「東京都武蔵野市吉祥寺の廻転寿司」6ページ目
「孤独のグルメ」原作原稿 第2話 「東京都武蔵野市吉祥寺の廻転寿司」

映像展示

DVD テレビドラマ版「孤独のグルメ」プロモーション映像 (2012年5月)

※表示できない文字は代替の文字を入力しています。

展示期間

2012年6月1日(金)～9月30日(日) ※第1期は7月2日(月)まで

休館日：毎週火・水・木曜(祝日の場合は開館)、8月26日(日)・8月27日(月)

◎臨時休館が入る場合もあります。当館サイトで確認されるか、開館日に電話などでお問い合わせください。

展示替え予定

・第一期：6/1(金)～7/2(月) ・第二期：7/6(金)～7/30(月)
・第三期：8/3(金)～8/25(土) ・第四期：8/31(金)～9/30(日)

関連トークイベント

・原作者・久住昌之が語る「孤独のグルメ」と谷ロジロー

講師：久住昌之氏(「孤独のグルメ」原作者、マンガ家、ミュージシャン)

日程：2012年6月17日(日)16:00～17:30

会場：米沢嘉博記念図書館2階閲覧室(千代田区猿楽町1-7-1)

料金：無料 ※会員登録料(1日会員300円～)が別途必要です。

・編集者が語る谷ロジローと「孤独のグルメ」

講師：新保信長氏(「孤独のグルメ」現編集者)

日程：2012年7月28日(土)16:00～17:30

会場：米沢嘉博記念図書館2階閲覧室(千代田区猿楽町1-7-1)

料金：無料 ※会員登録料(1日会員300円～)が別途必要です。

・明治大学リパティアカデミー オープン講座 明治大学・鳥取県連携「谷ロジローの味わい方」

講師：谷ロジロー(マンガ家)、夏目房之介(学習院大学大学院教授)

司会進行：宮本大人(明治大学准教授)

日程：2012年9月30日(日)15:00～17:00(開場 14:30)

会場：明治大学リパティータワー 1011番教室(千代田区神田駿河台1-1)

料金：無料

聴講申し込み開始：9月5日(水)10:30～ ※事前予約制です。

※スケジュール・内容については変更の可能性があります。

※関連雑誌・単行本を2階閲覧室でご覧になれます。

米沢嘉博記念図書館

2012年度 第1回 企画コーナー展示品リスト

鳥取県×明治大学 連携企画

孤独のグルメ

谷ロジロー原画展

第一期 6月1日～7月2日

協力：久住昌之(「孤独のグルメ」原作者)

扶桑社 SPA! 編集部, テレビ東京

小学館, 小学館集英社プロダクション

双葉社, 夢枕獏, 関澄かおる, 原正人

協賛：鳥取県

マンガ家・谷ロジロー氏の原画展を、出身地の鳥取県と明治大学との連携企画として行います。

谷ロ氏は、極めて高い画力と構成力によって、ハードボイルドな探偵ものから、厳しい自然の世界を描いた動物もの、さらには日常生活のささやかな喜びまで、幅広いジャンルの作品を手がけて、高い評価と熱い支持を集めてきました。その評価は今や海外にもおよび、フランスで芸術文化勲章シュヴァリエを受勲するなどの荣誉に輝いています。

今回は「孤独のグルメ」を中心とした展示を行います。原作者・久住昌之氏と組み、男性向けの一般誌で連載されているこの作品は、「男が一人で食べる」ことに焦点を合わせることで、「ハードボイルドグルメ」マンガという新境地を切り開き、ロングセラーとなっています。この春にはドラマ化もされ、人気を博しました。仕事場でコンビニのおでんを食べる様子などがいかにも魅力的に見えるのは、まさに谷ロ氏の描写の力ならではのと言えるでしょう。繊細で力強く、ユーモアを兼ね備えた絵の力を、原画によってじっくりご堪能ください。

